

# 安倍政権⇒改憲を前面に！戦争できる国家へ一直線？

小泉政権の5年半・・・毎年の首相の靖国参拝。9. 11に端を発した米国の対テロ戦争に呼応してインド洋に自衛隊艦船を派遣し、イラクに陸自・空自の部隊を派遣。有事立法成立。ミサイル防衛と在日米軍再編の日米合意。

いまだ成立はしていないにせよ防衛庁の省昇格、共謀罪、教育基本法改悪、国民投票法(改憲への手続き法)が国会の審議に。そして、庶民に一方的に負担を押しつけるような経済「構造改革」。まさに、国家主義を鼓吹し、自衛隊と米軍の一体化を進め、平和主義と民主主義の息の根を止めんとするような政策を矢継ぎ早に実現し、それでもなお比較的高い支持率を誇りながら退場していきようとしています。

そして次に来る安倍政権。戦後的価値観を真っ向から否定し、教育改革と憲法改正を最重要の課題として掲げる政権と私たちは対峙しなければならなくなりました。昨年発表された自民党新憲法草案は、国民の国を守る「責務」をうたい、自衛「軍」の保持を明記しています。さらに安倍氏は、憲法改正を経ずとも集団的自衛権の行使が可能であるとし、また敵地攻撃能力の保持すら許されると発言しており、この新憲法草案を上回るタカ派ぶりを示し

ています。

また、安倍氏は、日本の過去のアジア侵略の責任を全否定するかのような発言を繰り返して右翼的復古的政治勢力の期待を担っています。まさに、平和と憲法を守ろうとしている市民にとっては、「トンデモ」首相の誕生です。しかもその首相の一番の強みが、党内の政治力ではなく、国民の人気だということですから、何をかいわんやです。

**日本を戦争のできる国家へともっていきこうとするこの流れを、変えることは不可能なのでしょうか？**

9条を守るべきという声は、世論調査の上ではまだほぼ半数を保っています。権力によるメディア操作、教育の締め付け、経済的困窮や競争に疲れた市民の無力感・焦燥感などから、その声が届きにくくはなっているにしても、政治の世界はほんとうに思いがけないことが起こるもの。

**私たち市民の声が、その思いがけない変化を呼び寄せるように、倦むことなく戦争と平和についての対話を進めていくことが必要だと思うのです。**

・・・破局で流れが変わる前に。

## 一万人宣言への賛同署名を集めています！現在6158筆！

### 【平和と憲法を守りたい和歌山一万人宣言】

今から五九年前、近隣の多くの国々とそこに暮らす人々に償いきれないほどの惨害を及ぼし、自らも深く傷ついてこの国は戦争に敗れました。

この戦争を通じ、いかに多くの人々の生身が引き裂かれ、血が流され、生命が奪われたことでしよう。たとえどんな理由があろうと、このような愚かな行いを二度と再び繰り返してはならない。残された焼け土の大地に生き残った人々は、そのことを固く誓って戦後の歩みを始めました。その誓いの結晶こそが日本国憲法でした。

この国はもう決して戦争などしない、だからそのための軍隊も持たない。それは、なお野蛮な暴力が支配する世界に対し、次の世界を力づくよく指し示す理性の光でした。

しかし、その後の日本の歩みは憲法の理想を裏切ります。外国の軍隊の駐留を許し、国土は幾度も戦争の基地となり、自衛隊が創設され、実質的には軍隊といえるものになりました。そして今、イラク復興支援という名で、戦争状態の国にその軍隊を派遣するにいたりました。さらに、そうして積み重ねられた既成事実の上に立って、ついに、憲法そのものが書きかえられようとしています。

たった一人の子どもの命がこんなに愛おしいのだから、たった一人の近い人の死が想像するだけでこんなにつらいのだから、どのような大義があれ、無数の人間の命を奪う戦争を正当化することを私たちは拒否します。私たちの世代が平和への理想のともしびを消し、血塗られた歴史への扉を再び開くことは、絶対にあつてはならないことです。

いま、権力の大きさと、既成事実の重みの前に、私たち一人ひとりの声はとても小さく、か細く聞こえます。でも私たちは、平和と、平和を守るための憲法を守りたいという、心の声に忠実でありたいと思います。そして、その声を、私たちにできる方法で広め、大きく、強くしたいと思えます。

いつか友情で結ばれた平和な世界を築くために、世界中の子どもたちに戦火も飢えもない新しい世界を贈るために、わたしは、この宣言に名前を連ねます。

二〇〇四年三月

# 平和と憲法を守りたい市民の声 news

●●● 第1号 2006年9月16日 ●●●



## 【8.15 戦後61年を考える・「在日米軍再編 イエス？ノー？」】 ～シール投票同時実施～



本年も8月15日《終戦記念日》に、集会を行いました。午前10時から、和歌山大空襲の犠牲者を悼んで建てられた、三木町の「天啓の宙」像の前で献花式を行い、戦争犠牲者の冥福と平和への祈りを捧げました。午後からは、わかちか広場で、「8.15 戦後61年を考える」と銘打ち、基調報告「改憲と在日米軍再編」、ピース9の皆さんによる朗読劇、戦争体験の紙芝居、原爆写真展、音楽と、もりだくさんのイベントを行い、およそ50人の市民の参加を得ました。

同時に、JR和歌山駅前において、「在日米軍再編 イエスかノーか」というシール投票を実施。

結果は、「賛成8、反対75、わからない20」で、圧倒的に反対の意見をいただきました。平和憲法の擁護を訴える場合、決して忘れてはならないのは、日本が引き起こしたさきの戦争「アジア・太平洋戦争」のことであると思います。～右上へつづく～



平和憲法の原点を思い出すという意味で、私たちは、毎年8.15の集いを大切にしていきたいと考えています。また、シール投票の結果に私たちはたいへん勇気づけられました。同様のシール投票は、全国の各地で行われました。どの地域でも同じように、米軍基地再編に反対の声が大きく出たようです。戦争の犠牲者を悼むだけでなく、あたらしい戦争の犠牲者をうまないための行動に、私たちは立ち上がりたいと思います。

・・・今後の活動について・・・

私たち〈平和と憲法を守りたい市民の声〉は、結成から2年半がたちました。「和歌山1万人宣言」の賛同人を集めるという活動を中心に、これまで、講演会や街頭宣伝を精力的に続けてきました。また、「平和憲法を守る」という一点で一致する様々な団体との共同行動にも積極的に参加してきました。しかし、平和と憲法を守るという観点から見ると、社会情勢は私たちにはますます厳しいものとなってきているのが現実です。改憲を公約に掲げる安倍政権の出現によって、事態はますます緊迫するでしょう。この流れに抗し、平和への声をますます大きくするために、私たちは決意を新たに、これからの活動に取り組みたいです。

まず、活動の軸として学習会を兼ねた例会、そして「1万人宣言」の署名を集める街頭行動を、それぞれ月1回行って行きます。また、講演会等のイベントは、より多くの参加を獲得するために、他団体との共催を積極的に行って行きたいと考えています。そして、これまでご支援頂いた方々、ご協力頂いた方々に近況を報告し、さらにネットワークを強く、広くしていくために、不定期に「ニュース」を発行していくことになりました。どうか今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## 平和と憲法を守りたい市民の声

<連絡先> 〒640-1122 和歌山市西庄 1024-15

松浦 攸吉 方 TEL : 073-451-5960

<http://wpeacev.seesaa.net/>